



GSLetterNeo Vol.25

2010年8月

多様性と付き合う

コンサルタントファシリテータ

野島 勇

Isamu Nojima

nojima@sra.co.jp

GSLetterNeoVol22,Vol23 のコラムにてミュージカル出演の告知をさせて頂きました。おかげさまで **3公演あわせて6000人**もの方々にお越し頂くことができ、想像していたよりも良かった、感動したとの感想も頂きました。

さて、このミュージカルは100人100日プログラムと呼ばれる「**共育(教育)**」を目的としたプロジェクトです。ミュージカルを創るという体験を通じて各個人が成長してゆきます。人それぞれに様々な成長を遂げるわけですが、今回は**異文化理解という観点**で成長する過程をお伝えします。自分とは異なるタイプ・性格の人と出会ったとき、みなさんはどのように振る舞いますか？

◆100人100日プログラム

100人100日プログラムは**100人のキャストが100日間でミュージカルを創る**プロジェクト。創ると言っても物語は決まっており、各シーンの演出やダンスの振りや曲は大よそ決まっています。決まっていないことは、各キャストが演じる役の設定。どのような人物で、どのように振る舞うのかは全く決まっていません。さらに、各シーンの演出をキャストの手で変えることもできます。

演じる役の設定が決まっていないため、キャスト自身で考えて表現しなくてははいけません。各シーンに応じて、役の人物の気持ちや振る舞いを想像します。そのためにも、物語の理解が大切になってきます。

◆物語

物語の世界には赤緑黄青の4つの大陸が存在しま

す。赤はアフリカ、緑はヨーロッパ、黄はアジア、青はアメリカをモチーフにしており、キャストはいずれかの大陸の住人を演じることになります。

物語は各大陸が他の大陸の存在を知らない場面から始まります。大陸毎に独自の文化を発展させ、自分達の文化を楽しんでいます。時が経つにつれ、他大陸の存在を知るようになり交流が始まります。見知らぬ言葉、見知らぬ服、見知らぬ習慣に出会います。未知の文化を楽しむ人々、戸惑う人々、怖れる人々。キャストが演じる人物達は様々な感情を体験します。そして、未知を怖れる人々が戦争を始めます。

この物語を表現するために、演じる人物が**未知の文化に出会ったときに「何を考え」「何を感じ」「どのように振る舞う」**のかを、キャストは想像します。また、なぜ戦争へと向かうことになるのかを想像します。この際、100人いれば100通りの解釈や想像がうまれます。自分の想像を話し、互いに聞き合い、様々な視点を取り入れていきます。

◆仮想と現実

争いが起こるのは物語の世界、つまり仮想の世界だけではありません。実際にミュージカルを創る課程で、**背景や参加目的の異なる100人は互いの違いによって衝突すること**になります。ミュージカルの質を高めたい、仕事などの日常生活も大切にしたい、集中して精一杯練習したい、身体を壊したくない、自分の限界に挑戦したい、楽しく過ごしたい、それぞれに大切にしたい思いが違い、温度差が生まれ、取り組み方の違いとなって表れます。強い思いが時に衝突をうみます。

しかし、そこはミュージカルの物語に惹かれて集まった人がいる集団。争いで終わりません。互いに相手を知ろうとし、どうしたら互いを尊重しながらミュージカルの成功というゴールに向えるのかを考え、実践します。

◆願望から意図へ

物語は、戦争の後に悲しみを経て、生命力を蘇らせ、様々な文化が混じり合いながら活気を取り戻すシーンへと続きます。

私が昨年に観客として物語に触れたとき、世界が互いの文化を認め合い、喜び、楽しみ、祝っているシーンなのだと思っていました。そして、そのような世界になることを願っているのだと思っていました。

しかし、キャストとして物語に触れたとき、違う理解がありました。現実世界では、日々の生活のなかで他人を手痛く否定し傷つける言葉を吐いたり、陰で悪口を言い評判を落とすような振る舞いをしたり、不平不満を撒き散らしたりと心のなかでは争いや葛藤が続いています。そんな心を乱す感情を抱えながら、相手を理解することはできますか？ 分かり合おうとできますか？ そんなことを問われているのだと思っていました。

平和を目指そう、互いに理解し合おうと**言葉で言うことは簡単**です。心を乱す感情が湧きあがってきたときでも、意図を持って振る舞うこと。**願うだけではなく、意図を持って**分かり合おうとすること。そういったことが大切なのだと思います。

◆おわりに

ここまでの書き方だと100日間は「さぞ大変だったでしょう。」との感想を持たれるかもしれません。そんなことはなく、**とても楽しい日々**でした。ダンスや演技が上達することによる成長感。日常とは違う大きくのびのびした動きをすることによる解放感。衝突することはあっても、受け入れようとしてくれる人がいるという安心感。同じ目標を目指していることによる一体感。楽しいことの方が多かったです。

“やる気”が参加資格の100人100日プログラム。歌やダンスや演技が下手でも参加できます。そこは100人いるので適材適所。能力や経験をみて、役割が与えられることとなります。仕事と一緒にですね。

“やる気”があれば、人は思いもかけないような成果をあげられるのだと思います。

NPO 法人コモンビート : <http://www.commonbeat.org/>

◆◆◆ 真夏の夜のBGM ◆◆◆

オブジェクトモデリングスペシャリスト 土屋正人

猛暑日が続いています。夜になっても気温が下がらず、暑さで夜中に何度も目を覚ますこともしばしば。睡眠不足は体力を奪い、熱中症を引き起こす原因にもなりますのでご注意ください。

寝苦しさを少しでも緩和するために、涼しさをもたらしてくれる音楽をBGMにするのはいかがでしょうか。といっても、涼しさを感じるかどうかは主観の問題なので共感して頂けないかも知れませんが、クラシックのジャンルからいくつかおすすすめを。

一番のおすすすめは、フィンランドの現代作曲家ラウタヴァーラの管弦楽曲。「光の天使」と題された交響曲第7番は、4つの楽章からなりますが、特にその第1楽章の響きが、天空をオーロラが揺らめいているイメージを喚起させてくれます。どのようにしたらこのような神秘的な響きを作り出せるのかを確かめたくて、オーケストラスコアを購入してしまいました。

同じくラウタヴァーラの「カントゥス・アルティクス」もおすすすめ。極北の歌と訳される、鳥と管弦楽のための協奏曲です。北極圏に生息する鳥の声(録音テープ)とオーケストラが競演するというもので、「沼地」、「メランコリー」、「白鳥の渡り」と題された3つの楽章のいずれにも鳥の囀りや鳴き声が満ちあふれ、鳥たちを静かに包み込むような絶妙のオーケストレーションがなされています。北の地でバードウォッチングをしているような気分になさせてくれます。

現代日本を代表する作曲家のひとりである吉松隆の「ブレイアデス舞曲集」というピアノ小品集もおすすすめです。現在第9集までありますが、いずれもブレイアデス星団(ブレイアデス星団とも)一和名の「すばる」のように、ひそやかに穏やかな小品が収められています。

東京の空では、すばるを見ることさえ難しくなりましたが、目を閉じてブレイアデス舞曲集を聴きながら、高原の避暑地で寝転がって星空を見上げていることを想像すると、少しは涼しくなるかもしれません。

といった具合で、寝苦しい夜におすすすめのBGMを紹介しましたが、人が作った音楽ではなく、自然の声や音—例えば、朝露の溪谷に響く鳥の声、清流の調べ、潮騒、夜長を鳴き通す虫の声などをBGMにすることが一番いいのかもしれない。

夢を。



GSLetterNeo Vol. 25

2010年8月20日発行

発行者 ●株式会社 SRA 産業開発統括本部

編集者 ●土屋正人、柳田雅子、小嶋勉、野島勇

ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ●gsneo@sra.co.jp

株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋2-32-8

夢を。Yawaraka Innovation
やわらかいのべしょん